

平成28年度島根県総合教育会議

日時：平成29年2月14日（火）

10時～11時30分

場所：県庁 301会議室

溝口知事 それでは、ただいまから平成28年度島根県総合教育会議を開催いたします。本日は、皆さん、お忙しい中、お集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。

皆様方には、日ごろから教育委員として島根の教育行政の推進に御尽力をいただいております。厚く御礼を申し上げる次第でございます。

この総合教育会議は昨年度から始まったものでありますが、今年度は、本日が初めての会合となります。昨年10月に2名の教育委員の方が交代をされ、新しい顔ぶれでの初会合でございます。どうぞよろしく願いいたします。

県では、昨年度から地方創生のための総合戦略というものを実施をしておるわけですが、移住定住に向けた魅力的な教育環境づくりは総合戦略の柱の一つでございます。実は私は、今年の仕事始め式というのがあります。1月の4日からですね、職員全体が集まって式があるんですけども、その中で大体次のようなことを申し上げました。島根の古き文化・歴史や豊かな自然といった島根の魅力は、大人の努力によって受け継がれ、守られていますが、もう一つ大事なことは、子どもたちが島根の住みやすさや魅力を感じたり、理解をするということでもあります。そのためには教育委員会のふるさと教育も引き続き進めていく必要があります。こういった趣旨をちょっとしゃべるような文脈がございまして、申し上げた次第です。

本日は、このような観点から教育の魅力につきまして、皆さんの率直な御意見などをお伺いをしたいというふうに考えておりますので、よろしく願いを申し上げます。

以上で開会に当たりましての御挨拶にかえさせていただきます。

それでは、会議に入ります。会議の進行役は、私が指名することになっておりますので、教育委員会の片寄教育監をお願いをしたいと思います。よろしく願いいたします。

教育監 それでは、知事から御指名いただきましたので、私のほうで司会進行を務めさせていただきます。どうか活発な意見交換となりますように、よろしく願いを申し上げます。

本日のテーマは、先ほど知事の挨拶にもありましたように、教育の魅力化についてでございます。初めに、本日の意見交換の参考になればという視点から、教育委員会において「教育の魅力化」に関する論点整理という資料を準備いたしましたので、鴨木教育長のほうから説明申し上げます。よろしくお願ひいたします。

鴨木教育長 お手元に参考資料というA3判の資料を配付をしております。「教育の魅力化」に関する論点整理という表題をつけた資料でございます。本日の意見交換の参考にしていただきたいという趣旨で御説明を申し上げたいと思います。

まず、この資料の一番上のところに、米印で小さい字で書いてありますが、そもそもこの論点整理はどういう趣旨でまとめたものかということでございますが、教育の魅力化に向けて、昨年の県議会、9月定例会、あるいは11月定例会を通じてさまざまな議論がなされておりますが、この資料は特に県議会、11月定例会において本会議の質問戦なり常任委員会、特別委員会などで議論をされた、その論点を整理したものであります。それを本日の意見交換の参考としていただいた上で、各教育委員のほうから、知事と率直な意見交換をしていただければと、このように考える次第でございます。

それでは、資料の説明に入らせていただきますが、まずは大きな1番として、そもそも教育の魅力化とは何かという点について整理をしております。教育の魅力化とは、次代を担う若い世代の人たちに、島根が魅力ある地域であると実感してもらい、移住定住の地として選択してもらいたいと、そのために島根の教育をより一層魅力あるものに高めていこうとする考え方です。そのため、島根で育つ子どもたち一人一人にとって魅力的な教育とはどのようなものか、あるいは教育に関するどのような取り組みを進めることが地域の魅力につながっていくのか、それぞれの地域において議論をしてもらいたいと考えております。そして、その魅力とは、今ある島根らしい教育の魅力をより一層充実するような方向性のものではないかと考えています。

そして、その下に、参考として、教育の魅力化の方向性とは何か、あるいは教育の魅力化の取り組み内容、具体的にはどういうことが期待されるのかといった点について例示をしておりますが、11月定例会の中でいろいろ議論になった点をまとめたものでございます。

まず大きな方向性の例示でございますが、例えば障がいがあったり困難を抱えていたりすることも含めまして、今の子どもたち、多様な個性の広がりのある児童生徒一人一人と丁寧に向き合い、細やかな配慮のもとで大切に育てる、これが島根らしい教育の魅力にな

るのではないかというような考え方がございます。また、島根の子どもたちがこれからの社会の中を生き抜いていけるように、一人一人の進路選択に丁寧に立ち会い、自己実現を支援していく、こういう考え方も必要ではないかと考えております。

そして、具体的な教育魅力化の取り組みの内容面でございますが、これは昨年9月以降、県内の市町村とさまざまに意見交換を重ねてまいりました。そういう中で市町村の側から、こういったプラン、こういったことに取り組んでみたいという考え方を整理したものであります。この考え方は、この一つ上にあります方向性と整合するような形になるものもございます。

取り組み内容の1点目としては、先ほども申し上げました、多様な個性の広がりのある子ども一人一人を伸ばすために、細やかな教育支援を充実したい。あるいはふるさと教育とキャリア教育を一体的に捉えて、幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を貫いて、系統性に留意した教育活動を展開したい。そして、公設塾や公民館などでの放課後学習などを通じて、一人一人の家庭学習を支援したい。さらにはそういった教育の魅力化を総合的に調整する統括プロデューサーのような方を配置をしたい。このような考え方を市町村からお聞きしてるところでございます。

そして、このページの一番下になりますが、教育の魅力化を通じて島根の子どもたちにどのような力を身につけてもらいたいのかと、このあたりについても市町村との意見交換の中でも議論が弾んだところでございますし、県議会でも重要な論点になっております。

島根の子どもたちに身につけてもらいたい力とは、これからの社会の中を生き抜いていく力、すなわち、主体的に課題を見つけ、さまざまな他者と協働しながら、答えのない課題に粘り強く向かっていく力のことであろうと考えております。そのような力をぜひ教育の魅力化を通じて、島根の子どもたち一人一人に身につけてもらいたいと考えているところでございます。

そして、右側のほうに移っていただきますと、大きな2番として、教育の魅力化を実際に進める際の幾つかの留意点、これが論点として浮かび上がってきております。1つ目の丸に書いてありますが、やはり教育の魅力化を地方創生の柱の一つと位置づけた上で取り組んでもらいたいという点。そして、丸の2番目に書いてありますが、島根の子どもたちにどのような人間に育ててほしいのか、これはいわば教育の目標理念に相当する部分であります。その点についてよく議論をしていただき、地域社会全体で共有できるようにしていただくことが大切ではないか。3点目ですが、幼稚園・保育所、小学校、中学

校、高等学校、特別支援学校、こういったさまざまな学校を貫きまして、教育活動の連携を図っていく。そして、児童生徒一人一人の成長、発達に応じて、学校間のバトンタッチを確実にやっていく、このようなことが具体的に魅力をつくり出していくことになるのではないかという考え方です。そして、4点目が、これがいわば島根の教育の魅力、あるいは島根の教育の強みになっておりますが、そうした子どもの育ちを学校、家庭、地域の連携の中で実現をしていくということが大切ではなかろうかという点が見えてきております。

そして、この1番、2番が、いわばこの教育の魅力化の理念に相当する部分でございますが、それを今後どのように実際に施策として展開をしていくのかという点についての11月定例会での論点を整理した部分、これが3番、4番になります。

3番に書いておりますように、これまで取り組んでまいりました中山間地域・離島の県立高校の魅力化・活性化事業の成果を踏まえまして、中山間地域・離島の意欲ある市町村とともに高校魅力化に取り組む対象高校を順次拡大していきたいと考えております。そして、その高校魅力化に取り組む市町村においては、小・中学校から高校、特別支援学校までを貫いて、一体的・系統的に教育の魅力化を進めていただきたいという施策展開の考え方です。

そして、4点目の県の財政支援の考え方でございますが、これは16日から開会されます2月定例島根県議会に予算案として提案したいという考え方でございますが、中山間地域・離島の県立高校の魅力化に係ります活動交付金については、引き続き県が財政支援をすることとしたい。そして丸の2番目になりますが、その高校魅力化に取り組む市町村が小・中学校から一体的・系統的に教育の魅力化を進めようとする際には、県による一定の財政支援を行うこととしたい。そして、このような教育の魅力化に関するさまざまな取り組みの基盤となりますのが、やはりふるさと教育であろうという考え方の中で、ふるさと教育については全ての公立の小・中学校で継続的に取り組むことができるように、引き続き県が財政支援をすることとしたい、このような考え方に至って、予算案を取りまとめ、議会に提案をしたいと考えてるところでございます。

11月定例会での議論、あるいは2月定例会への予算の提案に向けた論点を整理をさせていただきました。説明を以上とさせていただきます。

教育監 ありがとうございます。

それでは早速、委員の皆様方に知事と懇談に入っていただきたいと思っております。

まず最初に、私のほうから順番に御指名させていただきますので、それぞれの委員の皆様方から御発言をお願いしたいと思います。

では、最初に広江委員様からお願いいたします。

広江委員 よろしく申し上げます。

本日のテーマが教育の魅力化ということですが、それを考えていく上では、大きく2つのことがあると思うんです。一つは、魅力化をするといっても、魅力のある教育とはどういうものなのかということとを少し考えてみななければいけないということ。それから、もう一つは、そういう魅力を、新しい、例えば授業を、教育魅力化推進事業でどういうふうに推し進めていくのかという2つの視点から考えてみたいと思います。

そうしますと、少し抽象的になるかもしれませんが、鳥根県の学校全てにとって、基本的に大事な、魅力ある教育をするということとはどういうことなのか。特にいろいろありますが、学習面から考えてみると、これはよく言われてることですけれども、一人一人の生徒にやはり基礎、基本をきちんと身につけさせるということだろうと思います。そして、それとともに、またその学んだものをどういうふうに使っていくのか、社会に、どういう将来役に立てていくのかということとを考えさせる教育をすることだろうと思います。

魅力のある教育というのは、私は今の学習だけのことで言いますと、基礎、基本をきちんと教え、そしてその次に向かってのステップをどう練習させていくのか、試行錯誤しながら体験させていくのかということだろうと思います。

少しそれぞれのことについて詳しく申し上げますと、基礎、基本が結局ついていないと、その次に向かっては何も進まないと思います。結局、ある問題解決学習をするにしても、基礎、基本がないと机上の空論に終わってしまったり、空想に終わったりすることになりますが、そういうことではなく、基礎、基本がまずきちんとできていないといけない。そういう意味では、そこにはわかりやすい授業とか、個々の個別の指導であったり、今少しずつ増えています、寺子屋何々と呼ぶような授業、あとは個別指導だったり、公設の塾であったり、そういうことが必要だろうと思います。

そして、これが第1段階で、基礎基本ということは第1段階で、そしてその次には第2段階としては、身につけた基礎、基本を将来どういうふうに使っていくのか。もっと進めると、今でも何かできることはないのかと考えさせ、そしてその将来いろんなことが、身の回りに起こるいろんなこと、自分で解決できていくような力を身につけさせる、これが第2段階だろうと思います。特にやはりふるさと教育やいろんなものを使っての課題解

決学習をさせていくということが重要ではないかと思えます。そのときに大きく成果を期待するよりは、こういうふうにして課題を見つけ、課題を解決するように努力をしていくという、そういう姿勢を養うことだろうと思えます。そういうことが学習面での魅力ある教育だと私は考えています。

そして、今度の教育魅力化推進事業を使って、これをどういうふうに進めていくかというのは、それぞれの地域で、小学校、もっと小さいころからいえば、保育所や幼稚園、そして小学校、中学校、高校、特別支援学校というものが一体になって、何か1つ、もしくは2つのテーマを決めて、それを発達段階に応じてやっていく。それはいろいろな一貫したテーマというのはあると思えます。ふるさと教育であったり、確かな学力をつけるという意味での、そういう取り組みもあるでしょうし、それからキャリア教育もあるでしょうし、環境教育もあるでしょうし、例えば外国語教育もあり得るのかもしれませんが。そういうものを発達段階に応じて、ステップステップでやっていく、それがうまく接続をしながらやっていく。

例えばふるさと教育に例をとりますと、小学校の低学年では、例えばふるさとにはどういう文化があり、またどういう特産物がありというようなことを学習をしていき、徐々に高学年になるに従って、ふるさとのいいところもあり、そして課題もあるだろうというようなことも考えていくようにする。そして中学校になれば、本当にその課題を解決するにはどうしたらいいのかという学習や、じゃあ、ほかの地域はどういうふうに同じ問題を持ってるか、解決してるんだろうかということも考えることも必要だと思ってます。そして高校に上がれば、そのことを実際にこういうふうに解決したらどうですかという提案をすることをしてみたり、情報発信をしたり、またほかの地域と実際に話し合いを行ったりという、そういう形を通して、徐々に徐々にその問題解決型の学習をする姿勢、そういうものを身につけていくということも大事だろうと思えます。そういうふうの魅力ある教育を一体になって、やはり発達段階に応じてやっていく、それは何でも同じだと思えます。確かな学力を身につけるであっても、外国語教育であっても何でも。それが地域々々の中で一つの柱を持って進めていければ、非常に効果のあるものになると思えます。私の考えです。

教育監 ありがとうございます。

今の委員の意見に対して、知事のほうから。

溝口知事 この魅力化というのは、言葉の考えなんですね。何ていいますか、子どもは

そういう、教育の魅力化というような概念は余り持ってないわけですよ。小さいころはそういう視点で見るっていうようなことはなかなか自分で意識としてないだろうと思うんですね。だから、段階的にどういうふうにするかは、教える側でその辺をよく整理をする必要があるでしょうね。我々が余り魅力魅力っていうのは、概念的にこういうことをすることが大切だっていうようなことは、大人の世界のコンセプトなんですよ。だから、子どもたちに魅力があるって、そういうダイレクトな言い方はできないわけでしょうし、自然と関心を持つような仕方を考えていかないといけないだろうなという感じが直観的にします。そこら辺をやはり整理をしないと、教える側も、何をどう教えたらいいのか難しいでしょうね。それで高校ぐらいになると、世界が少し広がって、大学を選ぶために島根県から出ていくことに関心を持つような人もいるでしょうが、具体的にどう教えるかっていうことを、やはり教育委員会のほうで考えてやらないと、先生方も教えることが非常に難しいような感じしますね。だから、年齢を追うごとに自然にそういうようなことができるような検討というのが必要だろうなと思います。しかし、それはかなり難しいことなんで。だから、我々のほうではあんまり魅力化魅力化と子どもたちに言わないほうがいいと個人的に思いますね。我々の概念として頭の中に思ってるのはいいと思うんですけど。大人の言葉と、子どもに実際にやるときと違うし、そこら辺を教育委員会がどういうふうを考えていくというのは、どうですか。

鴨木教育長 今回の広江委員の御発言に、また知事のほうからの御発言もありまして、教育の魅力化という言葉は今使って、県の教育委員会、市町村の教育委員会、ともに進んでいこうとしてるわけですが、この教育の魅力化というのが、もともと移住定住対策のために教育の魅力を高めていこうという、そういう文脈の中で始まった仕事になりますので、どうしてもやはり大人の側の、そしてこの島根県を、それぞれの地域を将来にわたって住み続けることができるようにするために、教育はどうあればいいかと、そういう考え方の中で、この教育の魅力化という仕事が始まろうとしているということですね。

溝口知事 そういう観点もあるけども、そういう知識、要するに大都市ばかりがいいんじゃないよと。そうじゃなくて、周りにもいろんなところがありますよというように視野を広げてやろうということなんじゃないかということなんですよ。

だから、子どもたちにダイレクトに、島根はいいところなんだと言うんじゃ、なかなかわからないんで、世の中全体を見たときに、いろんな選択肢があるけども、要するに、広く世の中を見れるようなことをやっぱりしてあげると。選択はやはり自分でするんでしょ

うけどね。それを知らないために、都市に出ていく、そういう面があったりはしますね。しかし、そこは世の中も大分変わってるわけだし、世界の状況も変わってるわけですし、どっかでやはり視野を広げるっていうか、そういうことを教育の一つの考えとしてやっていけば、自然にそういうことが、子どもたちが選択をするときに、何ていうんですか、参考になるといいですか、そんなような気が私はしますけどね。

だから、私が言いたいことは、あんまり魅力あるあると言うんじゃないで、それがわかるように自然とやるような情報の提供だとか、いろんな経験だとか、あるいは、校外に出かけて行って、その町々の活動に参加するとか、何かそういうことを含め、いろいろやるということが大事なことだということです。

教育監 今の御意見について、広江委員もあるかもしれませんが、とりあえず皆さんにお一人ずつ御意見を言っていてからというふうに思っておりますので。

それでは、続いて、森委員、よろしくお願いいたします。

森委員 よろしくお願ひいたします。

私は高校の魅力化事業についてちょっと考えを述べさせていただきます。私は出雲の出身ですけども、今は江津に住んでおりまして、もう30年を過ぎました。江津には若い人が少なくて、高校を卒業しましたら県外に出ていく人が多いです。そして、なかなか帰ってきません。きっと江津には就職口が少ないんじゃないかなと私は長いこと考えておりました。しかし、教育委員になってから、江津には大きな企業ですとか工場などもたくさんありまして、まさしく物づくりのまちであるということに気づきました。そして、これはどこの会社も、若い人の力を必要としているっていうことがわかりました。それを知ったってことは、私にとってのふるさと教育だったかなと思っております。

現在、魅力化プロジェクトの指定校8校は、県外からの入学者もあり、それぞれ地域の協力もあって成果を上げているのではないかなというふうに思っております。私は、地域が頑張ることで地域の魅力を教えることで、若者の県外への流出をとめたり、若者の移住定住を呼ぶことになると考えております。離島、中山間地域では、これとても必要なことじゃないかなと思っております。現在の8校は、全て普通科のある高校です。私は以前から専門高校、例えば農林、工業、商業、そして水産、この学校へのプロジェクト化が必要なんじゃないかなとずっと考えておりました。

先日、新聞に、17年度から入学時の県外枠を撤廃している高校11校を対象を拡大すると出ていました。これ読んで、大変うれしいなと思いました。物づくりの重要性とか、

楽しさを地域で教えていくことが、まさしく教育の魅力化ではないかなと思っています。若者が少ない地域では、物づくりですとか、工業、農業、林業、漁業、この担い手とか後継者がとても少なく、どこもそれを必要としております。子どもたちがこの島根の中で教育を受けていくうちに、自然と自分の将来ですとか自分の姿を、この島根の中に思い浮かべることができたら、いわゆるふるさと教育の成果も見えたんじゃないかなというふうに思います。追加の11校の中に農林高校が入っていなかったのが少々残念に思っております。これは11校が、入学時の県外卒を撤廃したという学校が対象でしたので、これはしょうがないと思いますけれども、島根県は農業県です。農業の後継者が不足していることは、県内どこも切実な悩みです。できれば農業高校にもプロジェクト化をと思っております。

以上が、この私が思っている高校の魅力化についての意見です。

教育監 ありがとうございます。

知事、いかがでございますか。

溝口知事 高校の場合はね、割と選択肢が明快になってくるわけですよ。そういう意味で、農業高校どうするかっていうのは、ちょっと私もわかりませんが、高校生ぐらいになるとかなり世の中を広く、授業でも実際にいろいろな形でやる場面があるんだろうという気がしますね。そんな感じしております。

だから、大人のロジックで行うんじゃなくて、子どもたちが自然に選択する、選択がいろいろできるような教育っていいですかね、どっかにとらわれなくて、不用意に決めるんじゃなくて、いろんなことに関心を持つ、また、そういうことを教えてあげるといような方向で教育のほうは進むのかなというふうに思いますけどね。いや、あなたたちに残ってほしいからというのでは、いけないと思うんですね。子どもの判断として、そういう選択のほうがいいかもしれない。あるいはそういう情報が今まで余りないから、何といいですか、余り選択だとかを考えずにある方向に進むっていうのをやはり直していくっていうことじゃないかなと。だから、基本、行政の立場で、幅広い教育の観点から残ってほしいからというのは、ストレート過ぎるんじゃないかなという感じがしますね。

そういう意味で、今日のことを知ってことは、比較的やってるようでやってないという面が割とあるのかもしれない。というのは、子どもたちの情報はテレビなんかが多いわけでしょう、本読む人もいますけども。それが大人、両親がどうされるっていうのもかなり強いインパクトでしょうしね、そういう幅広い世界に関心を持つといいですかね。

そういう意味じゃ、読書をするということが、間接的にも視野を広げることにつながるんじゃないかというふうに思いますけどもね。

教育監 ありがとうございます。

それでは、続きまして、藤田委員、お願いします。

藤田委員 私のほうからは、今の教育の魅力化に対する、ある程度期待をしております、そのことについて少し述べさせていただきたいと思います。

魅力というか、地域のよさ、伝統とか人情等を含めて、改めて見詰め直し、強い島根の持ち味として生かして行って、今行われている魅力化事業によりまして、さまざまな、ある程度相乗効果が上がってきております。行政、学校はもちろんですけども、地域が、人が、ある程度の差はありますけども、動き出しているというふうに感じています。それに島根には地元を支える率先力となる、定住対策にもつながる、先ほどもおっしゃいましたけども、定住対策にもつながる学校、それがもう島根全体に広がっております。それをある程度の役割を果たすことのできる学校ですので、それに似合った、それを生かしながら、学力を身につけることももちろんですけども、様々なことを身につけながら世界に向けて羽ばたいて、外から島根を支える。そしてまた、地元根づいて頑張り続けることも必要ですので、そういったことを小・中・高、特別支援学校も含めて魅力化を県全体に広げていき、ふるさと島根のよさを知りながら、しっかりと将来を見据えることのできる子どもたちを育てたい、育てていただきたいなというふうに願っております。

溝口知事 そうですね、地域のこと割と知らないわけですよ。やはりそういうチャンスがない。だから、それを学校のほうが提供するということが一つの考えでしょうね。昔っていいですか、遠足で出かけて行って、浜辺で遊んだりするとかね、子どもたち同士でやるとか、あるいはお祭りみたいな催し、あるいは企業の見学みたいなものもあるでしょうね。そういうことをやって、藤田委員おっしゃったように、地域を知っていくということは、間接的ですけども視野が広がる。どちらかというと、地域のこと、自分の近所はわかるけども、それを離れたところで何が行われてるかというのは、なかなか知らないんですよ。友達同士で遊びに行ったりして、違うところへ行って、そういう経験をするということがあると思うんですけども、学校も家庭の中でもそういうことをやるということが自然に地域、自分の住んでるところを知るきっかけになっていくんじゃないかっていう気がしますね。具体的な教育のプロセスとしては、地域の人と触れ合うとか、話を聞くとか、そういうようなことを少し広げるとか、強化するとかというのは立派なふるさと教育

だし、視野を広げるのにもいいかもしれませんね。

教育監 ありがとうございます。

それじゃあ、続いて、浦野委員、よろしくお願いいたします。

浦野委員 よろしく願いいたします。

私は、10年ほど前に名古屋から島根、出雲市なんですけれども、越してまいりました。ちょっと外から見た島根県の当初の印象とといいますか、そういうことをお話しさせていただきます。当時、2人の子どもは小学校4年生と、下の子は3歳だったんですけれども、一番本当に最初に驚いたのは宿題の多さですね、学校から出される宿題が、全然違ってたんですね。本当、名古屋にいるころは、もうどの学年になっても、はい、10分でおしまいみたいな宿題しかなくて、こちらに来て、やっぱり1時間ぐらい、1時間は4年生でしたけど、1時間、それ以上のときもありました。その中身というのが、本当に基礎基本なんですね。漢字、計算、音読、そういうものが主で、徹底的にその辺を鍛えるといいますか、そういうところから始まり、高学年に行くにつれ、自学といって、自分で課題を見つけて、それを自分で学習してノートどんどん整理していく。その冊数が増えるのを子どもはすごく喜んで、先生から丸つけてもらって、コメント書いてもらってというのがすごく楽しく学習させていただいたんですけれども。

それから、学校がすごく学力を保證してくれるところというのを感じました。それは小学校だけでなく、小学校、中学校、高校まで続いている、それを貫いているのが、やっぱり島根の教育の力のもとになっているように感じます。本当こちらに来て、私はもう勉強のほうは学校にお任せしようと思いました。その分、時間が増えるんですね。その時間が増えた分、友達と一緒に遊んだり、好きな習い事といいますか、そういうものに打ち込めたりとか、そういう時間が増えて、あと、いろんなことを経験することができました。今、高校卒業しましたけれども、その中、こちらで9年間の間に、本当にあらゆることに挑戦できたというのがすごくありがたいことで、例えば島根県は、先ほどお話にありましたけれども、豊かな自然や歴史もありますし、環境的に素晴らしいところだと思うんですね、子育てをする。それからもう島根そのものが魅力があると、私は本当に思います。それに県が予算を組んで、さらに魅力化を推進していく、ふるさとのことをもっといい方向に持っていく、子どもたちにも紹介していくといいますか、そういうアプローチの仕方が、またさらにいい方向に行くというのは、私はすごく楽しみだなというふうに思います。

溝口知事 そうですね、年齢によって、いろんな活動が違うんだと思うんですね。さっ

きおっしゃったように、子ども、小さい世代は何もわかりませんからね、まずはやっぱり学力の基礎をつくるということでしょう。それをやらないと後で苦労しますからね。だから、そういう学力の基礎がやっぱりないと、何をやるにしても大変ですからね。だから、それがだんだんできてくると、もう少しゆとりが出てきて、いろいろなことにも関心を持つようになる。そういうような、考えでやってくほうが、急がば回れみたいなことになるんじゃないかと思いますね。

だから、このふるさとを知るとかっていうのは、ある程度年齢が上がってないとなかなかいけないけども、しかし、子ども時代でも、そういう遠足だとかね、違う世界を経験をするというのは大切なことだと思いますので、カリキュラムっていうか、全体の教え方をよく考えるしかないじゃないですかね。やはり映像だとか様々なメディアを通じて、学校で教えること以外の情報が増えていますから、そういう中でどういうふうにしたらいいかと、ふるさとだとか、地域だとかの情報というのはなかなか伝わってきませんからね。そこは教育委員会がやっぱり考えていく必要があるんじゃないかなということでしょうかね。

教育監 ありがとうございます。

それでは、一番最後、出雲委員のほうからお願いいたします。

出雲委員 よろしく申し上げます。

私からは、実際に今、益田市の地域で取り組んでることを少しお話しできたらなと思います。私がいる益田市の豊川地区というところは、小学校が1校と、保育園が1校あります。昔から地域と学校が非常にかかわりがあり、学校中心に地域の行事がたくさんあったところなんですけど、最近は学校を支えてた地域の団体の方々が高齢化してきて、昔みたいになかなか学校を応援できないっていうようなこともありまして、いろんな団体の方が集まっていたいて協議会をつくりました。その協議会が主体となって、益田市教育委員会の方々にもサポートをしていただきながらいろんな事業をやっております。その中で寺子屋という事業があります。これは地区に住む保育園児から高校生まで全ての子どもたちが対象です。自学支援であったり、物づくりであったり、益田市には石見神楽という伝統芸能があります、そういう体験であったり、スポーツの体験だったりというのを、土曜、日曜、夏休み、冬休みなどを利用して、子どもたちと一緒に取り組んでいます。

もともとこの事業をやってみようと思ったきっかけは、田舎にはどうしても昔から、うちは田舎だからとか、人数が少ないからとかっていうような、消極的な考えがあって、そんな中で子どもたちが育つと、地区の中ではいいんですが、例えば中学になると隣の地区

の小学校と一緒に中学校に行きます。大勢の中に少人数で入らなければいけないというような状況で、引っ込み思案であったり、人前でなかなか自分の意見が言えなかったりします。そんなことからもっと自信を持って育ててほしい、いろんな活動の中でいろんなことを考えてほしい、そういう経験の場を与えようという思いで始めました。

その中で子どもたちの様子ですが、縦のつながりがより強くなって、年上の子が年下の子どもに教えたり、年下の子どもが年上の子どもに頼ったり、思いやり、気遣いができるようになりました。又、地域の方々といろんな話をする中で子どもたちは自分で考えます。中学生などは自分から率先してリーダーシップをとり活動を進めていくようなこともみられました。少人数の地域ではありますが、いろんな子どもたちがいます。中学校に入って学校生活に馴染めず不登校ぎみになっていた子どももこの活動には参加してくれます、少しずつ、少しずつではありますが、自分の目標だったり、夢だったりを持って高校に進学できました。学校と家庭の往復だけでなく地域という別の場所で子どもたちが自分の居場所をみつけてくれている、そんな取り組みです。

溝口知事 いろいろお話を聞きながら、何となくわかってきたというか、やはり一番子どもたちにとって大事なものは健全に成長してるってということでしょうね。友達づき合いができるとか、みんなと仲よくできるとかね、そういう健全に育成をしていく、大きくなる、これが親にとっても一番大事なことです。その上で学力をつけないと、いろんな選択肢が狭まるということがありますから、学力をつけていくと。その後でしょうな、今の地方のよさとかを考えるのは。だから、ほかにもまだあるかもしれませんが、例えばそういう小・中・高3つの段階があって、それを年齢進行に沿って、全体としてどういうふうにやっていくかというのは、やっぱり考えないといけないでしょうし、人によって、またそれが、早く身につく人もいるし、ゆっくり身につく人もいるし、いろいろでしょうけども。そういう中で、自分の地域を知るってというようなことを人々に任せて余りなされていない。そこをもう少し教育の課程でもやってるってというような感じですか。

鴨木教育長 知事から御指摘いただいているのは、我々が議論してきたことで、やはり足りない点があったなっていうことを率直に感じておりますのは、やっぱり子どもにとってどうなのかと。子ども一人一人が、幼児期から、小学校、中学校、高校、特別支援学校、だんだん育っていく中で、その成長発達段階に、この魅力化事業というものをどのように組み込んでいくのかと。子どもにとっての魅力化という視点をやはり大事に考えていかないと、本物になっていかないのではないかというような御指摘をいただいていると思うんで

すね。

昨年の9月以降、私ども県の教育委員会と市町村の教育委員会との間で、いわば教育行政同士でいろんなディスカッションを重ねていく中で、確かに地域の魅力になるから、教育の魅力化を進めていこうということで、ここまで議論進めてきましたけれども、確かにそれは、いわば大人の思惑の中で、そして地域を存続させるために教育というものの力をかりたいと、そちらのやはり議論のほうが中心であった傾向はあるかもしれません。

溝口知事 それはそれでいいんだけども、具体的なやり方はね、いろいろ考えたらいいいわけですよ。そこは余り強調する必要はないわけだ。それは子どもたちにとってもいいことなんだから。

鴨木教育長 子どもにとっての魅力化を考える上で、学校教育の中で何ができるかという部分と、やはり島根の教育の魅力っていうのは、むしろ地域の応援の中で子どもたちが健全に育っていく、視野を広げていく、そして力を蓄えていく。地域の大人の人の協力を得ながら、学校だけでなく、学校、家庭、地域の連携の中で子どもが育っていくところに魅力があるように感じておりますので、したがって、学校教育をどのように魅力的なものにしていくかということだけではなく、やはり地域の方々の応援を得ながら、子どもたちがよりよく育っていくために、今まで以上に何が出るかということを考えていくことが必要であると。

溝口知事 そうですね、それを教育委員会で考えるということですよ。それで、私が言ったのは、それは人によっても違うけど、年齢によって違うでしょう。小さい時代はなかなか難しい。しかし、やり方はいろいろあるでしょうと、それは地域に出かけていってやるとか。それから、少し物事がいろいろわかるようになると、もう少し教える面でもあるでしょうということですね。

教育監 知事、ありがとうございました。

そうしますと、委員の皆様方には一通り意見交換をしていただきました。

しかしながら、まだまだ最初の御意見に関する意見交換をもう少し深めたいという点もおありかと思えますし、また、違う角度から意見をというふうなお考えもあるんじゃないかと思っております。

2巡目は、私のほうから御指名は控えさせていただきまして、委員の皆様方から挙手をいただいて御自由に意見を言っていただき、知事と意見交換がさらに深まればというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。またどこからでもよろしゅうござい

ますが、いかがでございましょう。

では、広江委員、お願いします。

広江委員 先ほど知事がお話しになりましたことについて、2点、私もなるほどなと考えたことございますので、お話をさせていただきます。

一つは、大人の視点と子どもの視点という、先ほど来、話題になっておりますけれども、確かにそのとおりで、いろいろな施策っていうのは大人から見たもの、そして大人へ訴えているものでもございますが、子どもから見たときの魅力、そしてそれは学校教育を多分内側から、実際体験している子どもたちが見たものということで、それは施策もですけれども、大きく言うと教育の質のような感じがいたします。例えばその中で、学校が楽しい、友達といるのが楽しい、みんな大切にされているとか、授業がよくわかるとか、特に低学年の場合はそういうところへ訴えていかないと、多分、こういう魅力あります、こうしますよと言っても、子どもたちは、それは何なんだで、そしてまた、子どもたちが学校を楽しんでることがわかれば、大人のほうも、ああ、島根の教育いいんだなということがわかってくるというところで、そうすると、実際には学校や教室でものに当たる教職員との連携というのは非常に大切になってくる、今まで以上にきめ細かく、そして教え方も上手にならなきゃいけないっていう、それが運動しているんだなということを、今改めて感じました。

それが一つと、それから広い世界を見せなきゃいけないっていうお話がございました。そういうことでも、ふるさと教育について、私、少し考えることをお話をさせていただきます。

ふるさと教育っていうのは意外と内向きになり過ぎるという、私は気がしております。一つは、ふるさと教育の大事なところは、もちろん自分のふるさとをよく知り、愛し、そしてよって立つところを持つ、それが一つですけれども、ということは、世界中にそれぞれ大事なふるさとを持った人たちがいるんだと、それを、だからお互いに尊重していかなくちゃいけないんだというグローバルな視野も必要だろうと思います。

そういう心の中で、自分のこと、そして自分が大事だと思うっていうことは、人も大事に思ってることを持っているということを考えること。もう一つは、やはり身近なふるさとの題材を使って問題解決をしていく力を徐々に徐々につけていくという、私は大きく分ければ、その2つだろうと思います。

そして、先ほどもおっしゃいましたように、将来そういうことをしていったら、子どもた

ちが自分で選択をして、例えば自分はふるさとへ残る、一回出るけども帰るとか、いろんな事情で外で暮らしても、ふるさとのことを思ってるという選択を自分でできる力をつけること。そして、ふるさとに残ったときに、ふるさとを実際によくしていくにはどうしたらいいかという力をつけることだろうと思います。

先ほど来、話がありますように、今は世界と非常につながっているところでございます。例えば島根にいても世界に通じる窓はいっぱいあるし、世界との取引もできるし、その中でどういう力をつけるかっていうのが、やはり大きなことだろうと思います。そういうふるさとをつくり、自分の力でつくっていく力のある子どもたちに残ってほしいと思います。単純にふるさとに住めばいいんだってということではないという気がしております。例えば仮に農業をやったとしても、もちろん品質のいいものをつくる技術や知識が必要ですし、世界の流れの中で、農業どうなってるんだってことがわからないといけないだろうし、マーケティングも必要だろうし、それから本当に売るとなると、情報機器の使い方もわからなきゃいけないし、そういう力を持った人がふるさとに残るということを目指した教育をしていくことがふるさと教育だろうと思います。以上です。

溝口知事 そうですね。年齢によって理解度が随分違うでしょうから、そこら辺をよく見ながらしなきゃいかんということがあるような感じがいたしますね。わかりました。

教育監 ほかに。藤田委員、お願いします。

藤田委員 済みません、このことが魅力化にかかわりあるかどうか悩みながらちょっと発言をさせていただきます。知事が、1月4日でしたか、新年、会談の言葉の中で、すごく私に響いたことがあるんですけど、「子育てをしやすく、活力ある地方の先進県しまね」、この言葉は非常に心に響きまして、ああ、そうだ、そうならなきゃいけない、島根はっていうふうに、小さいながらも、それがいろんなとこに手の届く、少ないからこそ手の届く教育ができるんじゃないかなというふうに思いました。

その思いから、島根にはがんだとか難病だとかで苦しみながら、転校を余儀なくされて院内学級で学ぶ子どもたち、それから出席日数との関係から、高校を退学して治療に専念しなければならない子どもたち、数は少ないですけども、こういった子どもたちがいます。そういった子どもたちも、やはり島根で学ぶ子どもたちです。大切な島根の宝ですので、この子どもたちに学力に関してそういった心の負担だとか、苦しい思いをせずに、治療に専念できるように、何かいい方法はないものかと考えてるんですけども、がん教育も進んでいかなければなりませんけども、そういった子どもたちに手厚い、手の届くことができ

ないものかと思っております。

溝口知事 さっきお触れになった、「子育てしやすく、活力ある地方の先進県しまね」というのは、地方創生のための総合戦略のキャッチフレーズなんですね。「子育てしやすく、活力ある地方の先進県しまね」を目指そうということであるんです。

それで、今おっしゃったのは、子どもたちの状況がいろいろ違いますからね、それに応じた対応をやっていかなきゃいかん、これも基本でございまして、その点も勉強していこうかと思えます。

教育監 よろしいでしょうか。

藤田委員 ありがとうございます。

教育監 それじゃあ、ほかの委員の皆さん、いかがですか。

じゃあ、森委員、お願いします。

森委員 子どもたちが将来の、自分がどうするかっていうのは、もちろん選択肢がたくさんあると思います。島根県を出て、自分がもっともっと羽ばたきたいという子どもたちもいると思いますし、また、自分が今住んでいるところを自分が何とかしようという、それを見つけるのももちろん子どもの力だと思うんですけど、最初のほうのお話で、島根の魅力は大人の努力で伝えることができるっていうお話があったんですけども、まさしく本当にそうだなと思います。

最近新聞によく出ているのが、地域ぐるみの人材育成フォーラムですとか、地元企業のガイダンスとか、将来を担う人材育成策シンポジウムというのが、何かあちこちで、これ取り上げられて、実際に行われているのを知りました。ということは、やっぱり大人が子どもたちに努力を見せているというか、地元、こういうことがあるんだから知ってちょうだいと。なかなか子どもは、自分の勉強が今一番大事なことであって、本当に今、自分のふるさとがどういう窮地に立ち入ってるのかってことはなかなか知りませんが、こういう、例えば企業のガイダンスですとか、そういうフォーラムが行われることにより、自分が今、どういうものを選択していかなければならないかっていうのがわかっていくと思います。もちろんこれがまた地域力になっていくと思います。

地域力っていうのは、これ重要なポイントなんですけれども、これやっぱり本当に大人の責任でありまして、子どもたちにそういうものを見せていかなければ、子どもたちは知る余地がないというか。島根県も本当に、それこそ限界集落を抱えた小さい町ですとか、もちろん都市化している、この松江とか出雲、これが物すごい差がありまして、本当に今、

この町がどうなるのかというふうな心配をしている町はとってもたくさんあります。子どもに見せるものの一つとして、おじいちゃんの実業、おじいちゃんの仕事、お父さんの実業、お父さんの仕事っていうものを実際に見せるのも、これはやっぱりふるさとを知ることになると思います。

そういうものを子どもたちに教えていくことで、地域の魅力というか、地域の危機感を知り、地域の魅力を知り、そして自分の将来を選択していく、それは地元に残る者もあれば、外に出て、外から島根県を見、島根県のところに手助けをするという仕事もあるでしょうけれども、やっぱり大人が子どもたちに魅力を教えていくことが、つまり私が一番努力をしてやらなければならない大事な時期かなというふうに私は思っています。

溝口知事 島根県の中の企業の紹介などはね、大学生向けに、これは大きなフェアをやってみて、島根県の企業が自分の説明の場所をそれぞれつくって、そこを大学生の人たちが回るっていうようなことは相当やっています。それから、都市に出ていっても、そういうことをやってきてもらったりしていますし、これからもやっていくということですね。それから、地域的な問題は、やはり大都市から遠いということが一つのハンディーでしたからね。道路の整備を通じてやっておるわけです。それから、インターン式といって、大学生などが企業に勉強に行くっていいですかね、働きながらちょっと企業を見ると、いろんなことをやってみて、そういう就職に間近い人たちはもう相当進んでますが、子どもたち、子どもの段階から少しそういう関心を持つようにしたほうがいいんじゃないかというのが、この教育の魅力化の一つでありましてね。子どもたちにやっぱり外の世界、非常に地域の外を知ってもらっていいですかね、そういうことを教育の中でもやっていますが、さらに強化をしていくと。それから、中山間地域、離島などについても、そういうことが必要だろうというふうに考えております。

教育監 どうぞ。

じゃあ、出雲委員さんから、どうぞ。

出雲委員 済みません、今の森委員さんの続きで同じようなことになるかもしれませんが、ここ何年かで、地域の活動であるとか、フォーラムであるとか各地で行われています。先ほど益田市の地域の話をしてしまいましたが、その中でもう一つ地域活動に取り組む中高生グループがあります。地域の課題、問題を地域の方々と一緒になって話し合ったり、会議でも中高生と一緒に交えて話す場を設けてます。又、自分たちで地域になにができるのか、こんなことをしてみたいという事を実際に行っています。そういう中高生の活動が益田市の

中で豊川地区だけでなく、今いろんな地区に広がっています。非常にいいことだと思っています。

溝口知事 そうですね、そういうものをさらに拡張、拡大していくということが教育の中でやれる一つの分野かもしれませんね。高校生などがそういう地域の活動に実際に参加してやる、幾つもありますが、中学生でもそういうことが可能な分野があるんじゃないでしょうかね。それはやはり市町村と一緒にやってませんとね、教育委員会も市町村の教育委員会と連携をとってやってもらうことじゃないかと思います。

教育監 では、浦野委員、お願いします。

浦野委員 島根県は一つの特徴として、そこに住んでる地域の高校まで、そこで進学するというケースがすごく多いと思うんですよ。よその県だと、隣の区の高校に行ったり、県をまたいで外の高校へ行ったりとか、そういうことがすごく多いんですけども、ここは本当地域の、地元の高校で進むというのがすごく多くて、であるがゆえに、地域とのつながりも高校でもしっかりしていくことが可能であると思うんですね、可能性として。

溝口知事 あります。

浦野委員 私は出雲市に住んでおりまして、先日、出雲高校のスーパーサイエンスハイスクール、そして、スーパーグローバルハイスクールの発表会に行っていました。それは多分文科省からの指定を受けて、今取り組んでおられることなんですけど、そこでも、子どもたちは全部、ほとんどの子が出雲市に在住している子どもさんなんですけれども、かなり地域の方との連携といいますか、出雲には島根大学もありますし、あと村田さんとか、富士通さんとか、そういう企業もありますし、ほかにいろんな企業がありますし、そういうところと連携したりとか、出雲市、市役所の方と一緒に連携してやったりとか、そういうことで課題研究に取り組んでいらっしゃる子どもさんたちが、その課題を見つけて、地域の、学校の先生、もしくは家族以外の大人の方と密に連携とって課題を見つけて、その課題を解決するために検証して、考察して、結論を出してというふうに、その過程を踏んでいく、それが全ての子どもさんがやられるんですね。ある一部の興味のある子どもさんではなくて、それを学校を挙げてやっていく、その研究の過程もすばらしいんですけども、その成果を発表するのを聞いて、本当に高校生でもこういうことが可能なんだなというのをすごく感じたのですが、傍らでっていいですか、受験勉強、受験といいですか、勉強をしていく傍らで、そういうしっかりとしたことができる。

やっぱりそういう力っていうものは机上の勉強だけではなくて、自分の課題を見つけて、

それに向かって見通しを立てて進んでいく、そういうのっていうのは、やっぱり大人になってから、将来的にもすごく大切な過程だと思うんですね。そういうことを今の若い時期にカリキュラムの中でやっていくっていうのは、すごく大きな財産になって、大人になっていけると思うんですよ。それを学校を挙げて、県を挙げてっていうところが、すばらしいなと思ひまして、これは今は国の予算がかなり来てますけれども、もしかしてこういうのは、将来、県の魅力化の事業と申しますか、そういうふうな取り組みでやっていける一つの手段として考えられるのではないかなというふうにも思ひました。すごく子どもたちが生き生きとして、私が子どもに、勉強しながら大変でしたねと言うと、いや、でも楽しかったんですっていう言葉が直接聞けて、もう私もすごくうれしくなって、頼もしいなというふうに感じました。すごい大きな力になると思ひます。

溝口知事 そうですね。小学校ぐらいからね、工場の見学とか、中学、高校なんかになると、もう少し一緒に何かやると。それはかなりあるんだろうと思ひますが、そういう分野を整理をして、さらに進めるようにやるというのも、この活動の、高校魅力化の一つとして大いに活用できるんじゃないですか。

それを、そういう企業のこともあるし、社会の中で、地域の中で、いろんな地域活動の中でも広げていくとかね、やり方がいろいろ考えられると思ひますし、学校の外の世界と触れ合えるというか、それを増やしていくと、それをどういうふうにやったらいいかというのを検討をしていただいて、市町村でやったらいいんじゃないですか。夏休みなんかを活用するということもあり得るでしょうしね。

教育監 ありがとうございます。

ほかにいかがでございますでしょうか。広江委員、お願いします。

広江委員 今の出雲高校でのスーパーサイエンスハイスクールやスーパーグローバルハイスクールでの話が出ましたので、その形で、今は国の指定で出雲高校やっておられますし、ほかにもスーパーサイエンスハイスクールっていうのは別にもございますが、指定がなくてもいろんなところで、少しずつそういう学習の芽っていうのは出てきているような、発表会などを聞きますと、松江のほうの学校もやっておられますし、いろんなところでやっておられるという気がします。

それで、そういうことを経験した子、生徒っていうのは、非常に自立しているっていうんですか、自分の言葉で何かをしゃべることができるようになっていくという気がいたします。発表会などを聞いてると、このことはどう思ひますかっていうような質問があった

ときに、自分の言葉で、かりてきた言葉ではなくて、実際に自分が苦労して調べてきたことなので、非常に自立してるなっていう気がしております。そして、このことは大きく視野を広げると、全国的にもかなりやって成果を上げているところがございます。そして、つけ足しますが、そのこと、そんなことをしていたら、例えば学力大丈夫なのかっていうことがよく話に出ますけれども、私はそういうことをやってるところのほうが、はるかに学力がついているというのを全国的な傾向などを見ても、京都などにも非常に有名な学校でございますけれども、そういうところでの、それを中心にやってきて、そして別に受験のためのことを強くやっていないけど、しかし、子どもたちは、じゃあ、勉強するには自分はどうしたらいいんだ、これから、何を強めればいいんだということで、そういう意味での学力も非常についてきていると思ってます。以上です。

溝口知事 そうですね、いろんな世の中を知るほうが成長が早いっていうことはありますよね。

教育監 どうぞ。

藤田委員 私は隠岐なんですけども、先ほど言われたように、水産高校、隠岐高校のいろいろな発表会が小さい規模ですけども、行われます。それを見に行ったときに、ああ、子どもたちって、今一番必要とされているコミュニケーション能力というか、人に訴えて、人に話しかけ、訴えてわかってもらうという、そういったことへの大きな第一歩を重ねている。小さいときから知ってる子どもさんが、えっ、この子、ここはこういうふうに見えるようになったのとか、ああ、こんな一面があるんだっていうことにも改めて気づかせるというか、そういった一面がありまして、今言ったように、大きな規模でなくても、小さなことを少しずつ積み重ねていって、そういった教育に取り入れてやってる学校が、それがある程度の魅力に対する相乗効果ではないのかなというふうに思います。それによって地域と人が手伝いに来ます、それを地元の人たちも聞きに行きます。それを聞いて、ああ、頑張ってるなって、改めて地元の高校のよさをまた知るといって、そういった形の、いい周りが出てくるんじゃないかなっていうふうに感じますので、もっともっと県のほうからも支援をしていって、少しずつもうちょっと広げていければなというふうに思いますね。

教育監 時間もだんだん押し迫ってまいります、もうお一方。じゃあ、森委員さん。

森委員 以前、江津市のほうで、小・中・高の子どもたちのキャリア教育フォーラムっていうのがありました。それを聞きに行きまして、工業高校の子が、小学校、中学校、それぞれの子どもたちと一緒に実験をしたりとか、理科の実験ですとか、風力の実験ですと

か、いろいろなものに取り組んで、それを発表されました。そうしますと、子ども、小学生、中学生からも、こういうことをして、すごくそれが楽しかったとか、こういうのは今まで知らなかったんだけど、高校生のお兄さんたちに教えてもらって、すごくいい勉強をしたと、いろいろと子どもたちから、とても楽しかったという報告がありました。工業の生徒も、最後の質疑応答のところで、自分はちょっと勉強しに都会に出るけれども、必ずこの江津に戻ってきますとか、また自分はこの江津に残って、これから江津のために一生懸命、僕はしようと思いますとか、すごく活発な意見が出ました。もちろん大学進学、そして外から見るという子どもたちもたくさんいますけども、田舎に住んでいますと、実際に高校卒業してすぐに働く子っていうのはたくさんいます。また、地元の企業が、高校に卒業生をぜひうちの会社についていう、引く手あまたなんだと、それをすごく学校のお話を聞く中で、地元にもっともっと子どもたちをよこしてくださいっていう声がたくさん多いっていうのにびっくりしました。もちろん大学に進んで、よりよく力をつけて、そして島根県を支えていくっていう子どもたちもいますけども、そうでなくて、即戦力として、地元がすごく欲しがっている、いろんな専門高校で力をつけた子どもたちを、即っていう地域がやっぱり島根県にはまだまだたくさんあるなっていうのを、私は実際にいろいろ聞いたりして痛感しているところです。

溝口知事 わかりました。

教育監 それじゃあ、予定時間が近づいてまいりましたので、関連な御意見いただきまして、まことにありがとうございました。

それでは、知事のほうから意見交換をまとめて、総括的なコメントを頂戴いただきます。よろしくをお願いします。

溝口知事 大体意見交換する過程でお話ししましたが、改めてではありませんが、教育委員会のほうで皆さんの意見も取り入れながら、子どもたちにいい刺激になれば、やっていただけるかというふうに思っています。また、これに関連しまして、県の支援ですね、それも教育委員会から出ておりますから、それ適切に対応してまいりたいと思います。

これからも、この問題は大変大事な課題でございますので、皆様方の御支援をよろしくお願い申し上げまして、終わりの言葉といたします。本当にお忙しいところ、ありがとうございました。

教育監 ありがとうございました。

本日は知事と有意義な意見交換ができて、今後の教育行政を進めていく上で大変参

考になったというふうに考えております。本日提起されたさまざまな論点につきましては、引き続き教育委員会会議の場で議論を深めさせていただくことになるというふうに承知しております。どうも御協力、ありがとうございました。

それでは、以上で平成28年度島根県総合教育会議を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。